

最近のトルコ情報

今どきのトルコ

取材・文 / B B I 編集部

慌ただしく断食月を終え、砂糖祭と年明けを同時に迎えたトルコ。
 今年は暖冬で、例年に珍しい冬の太陽がトルコに降り注いでいる。
 さて、今どきのトルコでは、どんな出来事が起こっているのだろう。

●観光客数が 史上最高を記録

観光大臣エルカン・ムムジューは、トルコは二〇〇〇年に共和国史上初めて、一千万人台を突破し、一〇四二二〇〇人を記録したことを発表し、この成功はトルコの観光業のダイナミズムとエネルギーシユなパワーにあると述べている（下表）。

ムムジューは、発表の中で、トルコが世界のツーリズムの中で、非常に優れた可能性を持つている国であることに触れた。ツーリストの数は、昨年より四〇％増加しており、国別には、OECD諸国からの増加が目だつていと述べた。さらに、「トルコ国内の料金が低く設定されている」との意見に、「トルコ国内に於ける、また海外に於けるツーリズムの料金は、テレビを見ればすぐ分かることだ。これを見ればトルコが決して世界でも安い国でないことは明らかだ。また、OECD加盟国（＊１）からの旅行者が七〇％も増えていることにも注目してもらいたい、これら

の国の人々の収入は二〇〇〇ドルを超える。トルコは低収入のツーリストがバカンスで来る国ではない」と反対した。さらに、トルコ全国の四ツ

星、五ツ星クラスのバカンス村が二〇〇〇年ほぼ一〇〇％の稼働率を見せたことにも触れ、「我々は、このツーリストの増加率は五〜一〇％の間で来年も続くと考えている。一昨年七四八七〇〇〇人のツーリストを迎えたが、内訳は、ドイツ人二二七六〇〇〇人、これも六三・九％の増加率。イギリス、アメリカ、フランスと続いている。他、オランダ、ブルガリア、イラン、イスラエル。東ヨーロッパから訪れる人々も増加していることを述べている。

（2001.01.11 Hürriyet紙）

●バカンスは 分割払いで

トルコ旅行代理店連合（Türkiye Seyahat Acentaları Birliği=TURSAB）は、昨年一〇〇〇年前半の八ヶ月間に、TURSAB加盟の旅行代理店で旅行を手配したトルコ人四

外国人観光客数（年／人数：千人）

1963	198	1982	1,391
1964	229	1983	1,625
1965	361	1984	2,117
1966	449	1985	2,614
1967	574	1986	2,391
1968	602	1987	2,855
1969	694	1988	4,172
1970	724	1989	4,459
1971	926	1990	5,389
1972	1,034	1991	5,517
1973	1,341	1992	7,076
1974	1,110	1993	6,500
1975	1,540	1994	6,670
1976	1,675	1995	7,726
1977	1,661	1996	8,614
1978	1,644	1997	9,689
1979	1,523	1998	9,752
1980	1,288	1999	7,464
1981	1,405	2000	10,412

八八八七人を対象に統計を出した。それによると旅行客の七六％が、支払いを分割払いのクレジットカードで行い、現金一括払いを行った客はわずか二二・六％に留まった。また、クレジットカード分割払い組が希望するのは、バカンス村か、五ツ星ホテルで、食事から施設使用料を全て込みのシステムを好んでいる。

＊一年のうちで何月に休暇をとりたいか？
 一位八月（三〇・七％）、二位七月（二七・七％）、三位六月（一〇・二％）
 ＊どこに行きたいか？
 一位地中海（五五・七％）、二位エーゲ海（三〇・一％）、三位中部アナトリア地方（六・三％）、四位マルマラ海地方（三・三％）
 TURSABの調査はトルコ人が

●砂糖祭の 交通事故

年末が砂糖祭に続き、連休

＊１：経済協力開発機構 Organization for Economic Cooperation and Development

となったトルコでは、連休を故郷で迎えたり、休みを利用してバカンスに出かける国民へくれぐれも交通事故を起さぬようにと呼びかけが警視庁から出された。

一。日間の休みの間に出た結果は、死亡者一九五人、負傷者三六九人。それでも、例

年比べて減少していると発表されている。
(2001.01.03 Hürriyet紙)

●トルコのミレニウムミサ

二〇〇〇年二月二十五日、イエス・キリストの生誕二。



フェネル・ギリシャ正教会に集まった総主教達。

。年を祝って「ミレニウム・ミサ」を行う為、シリア、セルビア、ルーマニア、ブルガリア、グルジア、ギリシャ、ポーランド、アルバニア、チエコ、フィンランド、エストニア等、世界各国からギリシャ正教の指導者や代表者二二人が、イスタンブールの金閣湾沿いのフェネル・パトリックハーネスに集まった。これは一九九二年に行われたミサにつぐ盛大なミサとなった。

ミサは、フェネル正教会の総主教バルトロメオスによってトルコ語とギリシャ語で行われ、ギリシャのERT局、ルーマニアのTVR局によって生放送された他、外国人報道者も多く訪れた。

バルトロメオス総主教は、「神聖なるイスラム教の断食祭の期間に、我々キリスト教のミサを行うことを許可して下さった文化省をはじめとする関係者の方々の寛容な精神に心から感謝の気持ちを述べ、人間をおつくりになった神が皆様の健康と幸せをお恵み与え下さることを心からお祈りします。この行為は寛容の象徴であり、巡礼を目的と

する観光に対する観念が、いかに変化したかを示していると言えるでしょう。親愛なるイスラム教徒達よ、ギリシャ正教徒として貴方達にメッセージを送ります。神聖な断食祭を祝い、愛と尊敬を捧げます。全世界で友好と平和が続くことを」と述べた。

その後、聖教者達は、ニケアの宗教会議(B.C.310)で知られるイズニックにあるアヤソフィア教会を訪れ、やはり各国から訪れた信者と共にミサを行った。

●オリンピック 二〇〇八年

イスタンブールは二〇〇八年のオリンピック開催地に立候補している。これは初めてのことでなく、イスタンブールは過去一。年以上にわたって、立候補の名乗りをあげている。今回またしても、七年後の二〇〇八年オリンピックに向けて、名乗りをあげたトルコの為に、二〇〇一年三月二〇日オリンピック審査委員会が、現地調査に訪れること

になった。委員会は、イスタンブールにオリンピックを開催するに適切か否かを調査すると共に、イスタンブール市民が心からオリンピックを望んでいるかという点も調査する。

さて、オリンピックは、イスタンブールに何をもたらすのであるのか？

- ・スポーツが活発になる
- ・一七億ドルの投資によって、一九。億ドルを得られる
- ・七年の間に一七万人に仕事を与えられる。

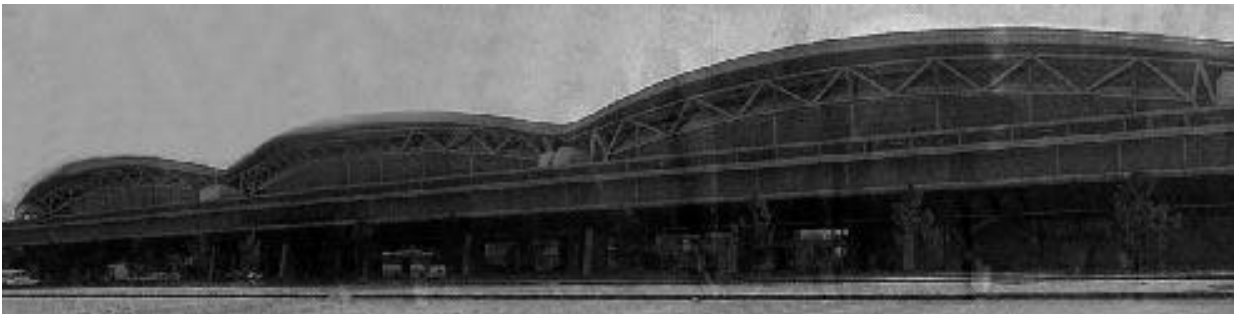
- ・二五。万人観光客が増加
- ・年間収入が増える
- ・社会環境設備が良くなる

イスタンブール市は急遽、垂れ幕、ポスター、旗等で、町のオリンピッククムードを盛り上げようとキャンペーンを始めたが、実際のところ市民の反応はいま一つである。

(2001.01.04 Hürriyet紙)

●新空港完成

年明けの一月八日イスタンブールのアジア側クルトキョイに五億五千万ドルをかけてサビハ・ギョクチェン空港が完



サビハ・ギョクチェン新空港。

成した。現在運行されている線は、アンカラのエセンボア空港間のみで、毎日朝晩各空

港から一便ずつ飛んでいる他、月、火、水、金、土曜日には、夕刻にも各空港から便がある。将来的には、国内の一。箇所の空港にも線を増やし、国外線は、ドイツ、ロシアへのチャーター便、貨物便、メッカへの巡礼に向かうツアー便等にも利用することが計画されている。

サビハ・ギョクチェン空港の建設中に、現存のイスタンブル・アタトゥルク国際空港の新ターミナルが異例の早さで完成した為、建設当初から言われていた、イスタンブルへ新しい空港は必要ではない、空港の建設地が適当でない等との批判の声が高くなっている。

●新交通網計画 二二年

二〇〇〇年九月イスタンブルの新市街に新メトロが完成したのは記憶に新しい。イスタンブル市は、現在工事中のミプロジェクトの他、今後二二年間の間にイスタンブルでの六つの新交通プロジェクトがあることを発表した。これ

は共和国建国一〇〇周年にあたる二〇二三年の記念プロジェクトとして計画され、ヨーロッパ大陸側のアタトゥルク国際空港と、イスタンブルの中心部、アジア側のサビハ・ギョクチェン空港を結ぶ線を中心として、各方面への交通網を充実させてすることを目標にしている。

その中でも、エセンレル・オトガル・バージュラル・マフムットベイ、アクサライ・スルタンチフチリイ、エミノニュー・ゼイティンブルヌ線は二年、アジア側ハレム・カルタル線は四年の間に完成が予定されている短期プロジェクトである。

●乙女の塔 展望レストラン

「クズ・クレスイ」として知られ、ウスキュダル湾の沖あい立つ灯台「乙女の塔」は、長い間放置されていたが、昨年の秋、改修工事が終り、展望レストランとしてオープンした。金閣湾、マルマラ海、ボスポラス海峡を多くの船が行き交う交通の要所にあり、

対岸にトプカプの宮殿岬や、ブルーモスク、アヤソフィアを眺めるロケーションは最高である。

この海の真中に立つ灯台へのサービスは、一番近いアジア側のサラジャックからはピストン送迎で随時わたり船が出ている他、オルタキヨイ発(11:30/13:30/15:30/17:30)戻り(13:00/15:00/17:00/19:00)トプカプ宮殿岬(セベツチレカスル)発(12:30/14:30/16:30)戻り(14:00/16:00)の便があり、帰りは好きな場所に降りることができる。

月、火曜日は休業。他毎日一時から一九時まで軽食サービスがあり、行き帰りの船のチケット代、サラジャック往復三百万TL、オルタキヨイ、宮殿岬往復四百万TLには、乙女の塔でのワンドリンク料も含まれている。

また、日、月、火曜日以外は二時半から一時半まで、オルタキヨイとサラジャックから夜の送迎サービスも行われ、塔内のレストラン・レストランドスでは、夕食時に生演奏も行われる。(レストラン予約及びお問い合わせ/0216 3424747)

これからの季節、違った角度からイスタンブルの眺望を楽しめる。



観光の新名所「乙女の塔」